

上高地とのつながり

穂高神社には、他に二宮の分社があります。一つは容易に参拝できる場所にあり、もう一つは雲の中に建てられています。

奥宮は、上高地にある明神池の近く、名所・河童橋から一時間ほど歩いた場所にあります。この分社は、九州からやってきた海の民、安曇族との古い繋がりを示唆する側面を持っています。毎年 10 月に行われる祭りでは、色とりどりの平安時代（794-1185）の装束に身を包んだ神職が舟で明神池を渡り、安全に山を越えられたことを神に感謝して祈りを捧げます。

穂高神社の嶺宮は、日本で三番目に高い奥穂高岳の山頂であり北アルプスで最も高い地点、標高 3,190 メートルの場所に建つ小さな木造の建物です。ここは神である穂高見命が天から地上に降りてきた場所とされており、穂高見命はここから登山者と山々の向こうの安曇族の子孫を守っていると信じられています。